

ワークショップ I

# 「北国におけるEV・自動運転」

◆SDGs と Society5.0、そして新型コロナウイルス……。激動する社会情勢下でも着々と世界的に技術開発と社会実装が進む電気自動車と自動運転。一方で少子高齢化や人口減で相次ぐ地方での公共交通機関の赤字路線の廃止や、高齢者が余儀なくされる免許自主返納での交通難民といった社会要因などに加え、北東北地方での自然要因では「ゲリラ豪雪」とも呼ぶべき急激な道路環境の変化がもたらす立往生や大事故の頻発など、首都圏や都市部と全く違う北国ならではのクルマを取り巻く課題に目を向けるタイミングではないでしょうか？

◆本ワークショップでは、秋田県上小阿仁村で実証中の「こあにカー」プロジェクトを通して、共通課題を抱える岩手県での取り組みとも重ね合わせて、これからの北国におけるEV・自動運転について皆さんで探ってみたいと思います。

2021年 3月18日(木) 13:00-17:00

@岩手県立大学 地域連携棟 1F「プレゼンテーション室」(滝沢キャンパス入口正面)

定員 10名 (申込は3/12 正午まで 019-694-3330 または i-mos@ml.iwate-pu.ac.jp)

①イベント名:「ワークショップ I (3/18)」②参加方法:会場/ZOOM ③会社名・学校名

④所属・役職 ⑤氏名 ⑥メールアドレス ⑦電話番号 以上をお知らせください

@ZOOM (イベント参加リンクは、別途ご連絡します)

## 第1部「北国におけるEV(電気自動車)」

<13:05-13:45>

### ▶基調講演「自動運転に寄与するDS最前線」

講師 東北大学未来科学技術共同研究センター

准教授 山邊 茂之 氏

\*”自動運転”に向けた技術開発に欠かさないドライビングシミュレータ(DS)。でも「なぜDSが必要なのか?」。災害発生時の車避難や高齢者逆走など、クルマをめぐる社会課題に幅広く挑み続けるトップランナー山邊氏から、まだ知られていない自動運転の最新情報を踏まえお答えします。また、もう1つの自動運転と言われる“遠隔操縦”へのDSの大きな役割も紹介。



<13:50-14:20>

### ▶事例発表1「道の駅かみこあに自動運転サービス」

日本工営株式会社仙台支店

交通都市部専門部長(現地責任者) 藤高 勝己 氏

\*2ヶ年の実証実験を経て令和元年12月よりNPO上小阿仁村移送サービス協会が社会実装を開始した秋田県上小阿仁村道の駅かみこあにでの自動運転サービス「こあにカー」に関して、概要と運行状況、現在の課題と今後の予定などをご紹介します。

<14:25-14:55>

### ▶事例発表2「脱炭素社会に適したEV」

元一関席高専教授 博士(工学)

岩手県IT連携コーディネータ 佐藤 清忠 氏

\*市販EVキットカー「PIUS」実車を教材に、モータの効率等、部品要素がソーラーパネルで発電可能なエネルギーで走行できることを学びます。駐車場内でのデモ走行でエコな乗車を体験して、EV部品の特性や性能評価もしましょう。



## 第2部「北国における自動運転」

<15:00-15:30>

### ▶事例発表3「こあにカーで人を招く」

一般社団法人秋田犬ツーリズム

事務局長 大須賀 信 氏

\*人口約2000人、2.1人に一人が65歳以上の秋田県上小阿仁村で動き出す「自動運転ツーリズム」。「こあにカー」が地域を活性化させる資源に大化けできるのか? DMO (Destination Management organization) 仕掛人が夢を語ります。

<15:35-16:05>

### ▶事例発表4「北国の自動運転に路面センシング・データでコミットする」

岩手県立大学特任教授 柴田 義孝 氏

\*刻々と変化する北国の冬の路面。車載センサが自動で捉え解析したビッグデータを、対向車や道路脇サーバと通信し、事故予防・災害発生予知を情報通信技術で実現。センサ取り付け試験車の実車見学あり。

<16:15-16:55>

### ▶質疑応答・意見交換会

アドバイザ 株式会社 TemTech 研究所

代表取締役 相澤 満芳 氏

\*今回の教材「PIUS」にプロポを組み込みリモコン操作仕様に改造した張本人。モノづくり・組み込みに熱い視線を送り続ける生粋のエンジニア。

アドバイザ 日本自動車査定協会岩手県支所

事務局長 大欠 英穂 氏

\*客観的にクルマを見定め自らも運転をこよなく愛する「自動車目利き」の第一人者。市場や業界から見たEV・自動運転への期待感や望まれる将来像など提案いただきます。